

平成24年度 推薦入学・帰国子女特別選抜・社会人特別選抜・編入学 小論文
出題の意図と解答の傾向

問題 1

【出題の意図】

中山茂『パラダイムでたどる科学の歴史』（ベレ出版、2011年）から出題した。「パラダイム」という聞き慣れないテーマを用いることにより、日頃から書物や説明文に親しみ、筆者の意図を読み取る学習がなされているのかを問うた。出題に使われた本文は、安易に結論を予想できるような内容ではないため、要領の良い解答方法だけでは対処が難しかったはずである。聞き慣れない言葉であっても、文章中に明確に定義された部分を見つけ、前後の文脈を注意深く読み取れば、筆者の解説や主張は正しく把握することができる。

文章の前半では、科学の発展経緯が「パラダイム」の用語解説とともに述べられている。「パラダイム」と「通常科学」がセットになって科学は発展し、通常科学が進まなくなったときには、パラダイムのほうが変わる「科学革命」が起こるといえるものである。本文中に出てくる「科学」「パラダイム」「通常科学」「科学革命」のキーワードを理解することが、本文前半の読解ポイントであり、設問1として用意した問題でもある。科学というものが、パラダイムという古典的業績の上に通常科学を進めていくことによって発展していくということを理解していなければならない。

また本文の後半は、「科学」と「科学以外」の違いについて解説されている。これらはいずれも知的活動であって、科学だけを知的活動などと思いつまみないように注意すべきである。科学という知識と、科学以外の知識は、その「伝達」に違いがあり、先行している業績の理解の仕方が異なると解説されているのであるから、その点をしっかりと読み取った上で、借り物ではない自分自身の考えを説得的に述べることができるかを問うた。読解力に加えて、発想力や文章表現力を確認したかったのである。

【各問の解説】

＜設問1＞

前半の本文を良く読んでパラダイムの解説部分を見出し、設問に対応した文章に組み立て直して答える技量を問うたものである。ここでポイントとなるのは、パラダイムが一定の期間、科学上の問い方と答え方のお手本を与えるような「古典的業績」であること、それによって「通常科学」をどんどん進めることができること、また通常科学が進まなくなったときには「科学革命」を起こすことである。他に、職業的研究者に安心を与える役割なども解答に加えることができるだろう。

なお、ここで問われているのは、「科学」の発展における「パラダイム」の役割であるから、「科学以外の知的活動」における「パラダイム」の役割について述べる必要はない。

＜設問 2＞

設問 2 で留意すべきは、程度の差こそあれ筆者が、「社会科学」も「芸術」も同じく、「科学以外の知的活動」と見なしている点である。科学という文字が含まれてはいても、「社会科学」は「科学」ではない。それは、まさしくこの設題に対する決定的な解説となる、知識の「伝達の違い」から分かることである。筆者は「伝達できる知識」である「自然科学」を、「科学」と呼んでおり、人によって理解の仕方が異なってくるような「必ずしも伝達できない知識」は、すべて「科学以外の知的活動」として区別しているのである。その区別（違い）は、パラダイムのあいまいさや、パラダイムに従うべき通常科学と進歩の関係によっても説明されている。

設問は、あくまで「科学」と「科学以外の知的活動」の「違い」についてである。筆者の言うところの「違い」をしっかりと理解したうえで、自分が考える「違い」を説得的に表現できるのならば、理解力のうえに相当な発想力と文章表現力を有していると見なして高い評価ができる。

【解答の傾向】

全般的に言葉を安易に使う傾向があり、慎重に言葉を吟味して記述するという訓練が積まれていない様子が伺えた。「科学」とすべきところを「化学」、「パラダイム」と記すべきところを「パラダイス」と誤記するなどである。また「伝達できない知識」とすべきところを「伝達できない科学」と表現したり、「科学」と「通常科学」と「社会科学」を混同している解答も散見された。これらは注意不足による誤記か、理解不足によるものである。誤字やケアレスミスの事例が数多く見られるのは、言葉を正確に理解し表現しようとする学習の欠如である。文章を読み進むにつれて、筆者によって意味づけされ定義されていく言葉をしっかりと把握し、それらを正しく解答用紙に記述しなければならない。

設問 1 は比較的よくできていた。しかし、パラダイムの果たしてきた役割を一つだけと見なしている解答が目についた。設問に対して十分な解答をするためには、外せないポイントやキーワードが複数あるかもしれないと考えるべきである。

設問 2 は「違い」を問うているにもかかわらず、自分で勝手なテーマを作って賛成か反対かを述べたり、脈絡なく自分の感想や情緒的な気分を記述している解答が多かった。自分の経験談や社会の時事問題に引きつけた解答も数多く見られたが、本問の主旨から逸脱して無理な内容になっているものが多かった。また脈絡なく、「科学技術は絶対ではない」などの道徳的な善悪に終始した解答も散見された。こうした本文や設題と関係のない話題が唐突に始まって、的外れな感想を述べるといったタイプの解答は、いずれも複数の解答者によって同じ事例が頻繁に利用されていた点で共通している。事前準備をしていたせいもあつたろうが、虚心坦懐に本文を読んで解答すべきである。

本文を正しく読み解き、設問に対して適確に答えようとした解答と、そうでない解答では、その差が明らかであり、点差もはっきり出るようになった。

問題 2

【出題の意図】

日本の財政状況および社会保障に関する資料をもとに、現状と課題について読み解き、将来どのようなあり方が望ましいかを論じさせる問題である。個別の図表を理解することも重要であるが、図表間の要素の関係を理解し、そこから論理的に結論が導き出せるかどうかを問うている。

設問 1 は、図表中に示されている日本の税収、歳出および公債の発行額と残高といった要素間の関係を読み取れるかどうかを単純に問うた問題である。歳出が増加傾向にあるにもかかわらず税収は伸び悩んでおり、その差額を埋める形で公債が発行され、年々その残高が増加していることを示している。

設問 2 は、上述の財政状況に加えて、人口構成の変化、社会保障の収支状況、国民負担の増減等について、国際比較も踏まえつつその関係を明らかにし、それに対する意見を論理的に述べることができるかどうかを問うた問題である。少子高齢化、人口減少が進むなかで、社会保障の収支状況は悪化しつつある。一方で、国民負担率は近年大きく変化していない。諸外国と比較すると、アメリカのように低福祉低負担の国と、スウェーデンのように高福祉高負担の国があり、日本はその中間的な位置づけとなっている。財政状況の厳しいなかで、現在の福祉水準を維持するために負担を増加させるのか、負担を増加させないために福祉水準を下げるのか、といった点について検討が必要な状況であることが示されている。

こうした点について、限られた字数のなかで資料全体を整理し、かつ明確な論拠を示しつつ意見をとりまとめることを求めている。意見自体は多様なものが考えられるので、整合性あるいは論理性がしっかりしていれば、どのような意見であっても問題はない。

【解答の傾向】

設問 1 に関しては、比較的良好にまとめられていた。ただ一部ではあるが、税収、歳出と公債の関係が理解できていないと思われる解答も見られた。また明らかなケアレスミスと思われる、増加しているものを減少していると記述しているような解答も見られた。

設問 2 に関しては、それぞれの関係性を明らかにして、かつそこから自らの意見を明確に述べている解答も少なからずあったが、資料の一部のみを取り上げて論じたものや、問われたこととは無関係な話、あるいは資料からは読み取れない話を一方的に展開している解答も目立った。一例として、人口構成の資料をもとに少子化対策だけを述べている解答や、スウェーデンの政策のみを説明している解答もあった。給付を増やすべきだと論じるだけで負担について触れておらず、負担と給付の関係が理解できていないのではないかとと思われる解答も目立った。また、社会保障に関して高齢者についてのみ意識が集中しており、解答者自身の世代と考えられる若年層について述べている解答は非常に少なかった。高齢者の雇用を増やすべきだとする解答はかなり見られたが、それが若年層にもたらす影

響にまで考察が及んでいると思われる解答は見られなかった。そのほか、個人的な体験から意見を展開している解答もあったが、限られた字数では資料からの説明が不十分となっていることが多かった。

全般として、誤字脱字の多い解答が目立った。とくに問題文中に示されている漢字を誤記しているものや2文字の単語を1文字しか記入していないものなど、明らかなケアレスミスと思われる解答も少なからず見られた。